

# 介護老人保健施設ライフサポートねりま

症例概要 ご利用者:100歳代 性別:女性 介護度:要介護5

病名: アルツハイマー型認知症

利用サービス: 入所

経過: 令和3年7月圧迫骨折にて、疼痛軽快、歩行とADLの軽快を目的に、当回復期リハ病院に入院となる。療養リハビリ目的にて、当施設2回目の入所。

## 内 容

令和元年5月より延べ日数923日間関わらせていただいた施設最高齢のご利用者の事例です

昨年の敬老祭では長寿のお祝いをさせて頂きました。

ご本人ご家族共に「この施設で、いつまでも元気にリハビリをして穏やかに過ごしたい」と当施設で残りの人生を過ごされることを希望されていました。

食べる事が大好きで、いつも完食される姿を職員達は温かくずっと、見守って来ました。

今年に入り、徐々に嚥下機能が低下し、飲み込むことが難しくなりましたが食べる意欲は変わりませんでした。ご本人にとって何が一番大切かをチームで話し合いました。

看取り期ケアについて、検討する中で、ご本人の意志を尊重したいとの思いが強く、食形態を検討し、ご本人の食べる意欲を一番大切にしました。職員が介助するのではなく、最後まで、自分で食べさせてあげたいとの思いから亡くなる2日前まで、自力摂取する事が出来ました。

また、コロナ感染対策にて直接面会が出来ない中、寂しく過ごすことの無いように、お声をかけをして、食事以外の時間も皆で過ごせるように対応させていただきました。

看取り対応となり、ご家族との時間を大切にとの思いから、ご家族と直接面会を出来るよう対応しました。ご本人の体調も安定されており、お孫さんからは「おばあちゃんに会えて、嬉しい」と喜んでくださり、ご家族と過ごせてとても幸せな時間でした。

最後まで穏やかに過ごされ、職員達に見守られ2月上旬に永眠されました。

人生の最後をこの施設でと希望され、皆がその思いを受け、ご本人の意志を尊重し、寄り添うケアをすることが出来た事。ご家族からも感謝のお言葉を頂き、その人らしい生活を最後まで送る素晴らしさを感じた事例。